

## インタープランティングを利用した トマトの高収益周年栽培

岩手県をはじめとする東北地域におけるトマト栽培は、簡易パイプハウスを利用した夏秋どり作型が中心であり、平均収量は12t/10aと横ばいが続き、収量の向上が求められています。そこで、岩手県農業研究センターでは、生産規模の拡大と収益性の向上を図るため、高軒高ハウスに適応し、規模拡大を可能にする作業労力の低減と高単価期の出荷を狙ったインタープランティング（収穫中の株を残したまま新しい苗を定植する技術）を用いた新たなトマトの作型を開発しましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 本作型は、1作目は3月上旬定植7月末栽培終了の短期どり（7段）、2作目は7月上旬定植1月末栽培終了の中期どり（14段）を組み合わせた作型です。
2. 2作目は、1作目の栽培期間中に定植するインタープランティングを用います（図1）。
3. つる下ろし作業は1作目には行わず、2作目の9月に1回行うだけであり、授粉もクロマルハナバチを用いるため省力的です。
4. 商品果収量は1作目12.0t/10a、2作目16.0t/10aの計28.0t/10aが得られます。
5. 本作型での粗収益は、10aあたり933万円、利益182万円であり、家族経営規模（基幹従事者2名＋臨時雇用2名）を想定した場合、30a規模まで拡大可能であり、このときの粗収益は2,800万円、利益は622万円になります（表1）。

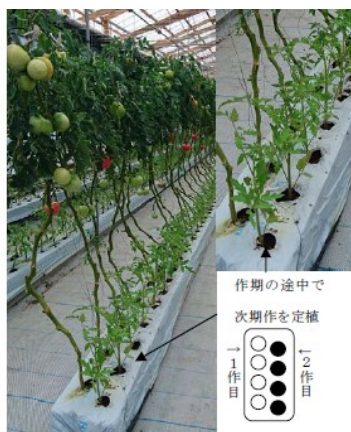


図1 2作目インタープランティング直後の様子および定植位置の模式図

表1 30a規模での収益性

1 粗収益	(千円)	28,005
収量*	(kg)	72,741
販売単価	(円/kg)	385
2 経営費合計	(千円)	21,782
変動費		12,473
うち労働費(雇用)		590
固定費(減価償却費)		9,309
3 所得	(千円)	6,223
4 労働時間	(時間)	5,122
うち雇用		796

\* 24t/10aで計算

### ☆ 活用面での留意点

1. この栽培による労働時間は、誘引棚高2.7mの高軒高ハウスでの作業を想定しています。
2. 栽培は複合環境制御条件下で行っています。
3. 本成果は農林水産省/食料生産地域再生のための先端技術展開事業で実施したものです。
4. 詳しいことは、岩手県農業研究センター 技術部 南部園芸研究室（TEL: 0192-55-3733）まで、お問い合わせください。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）